報 告 書 抄 録

ふ り が な	ちばけんやちよし　たこいけだいいせきびーちてん
書　　名	千葉県八千代市蛸池台遺跡ｂ地点
副 書 名	集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編 集 者 名	森　竜哉
編 集 機 関	八千代市教育委員会
所　在　地	〒276-0045　千葉県八千代市大和田138番地２　TEL 047（483）1151代表
発 行 年 月 日	令和５年（2023）12月20日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たこいけだいいせきｂちてん 蛸池台遺跡ｂ地点	よなもとあざはらうち 米本字原内2167-19	12221	112	35度 45分 7秒	140度 6分 39秒	20230823 ～ 20230915	上層　35	集合住宅建設

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
蛸池台遺跡ｂ地点	包蔵地	縄文時代・古墳時代	弥生時代中期方形周溝墓の区画溝１条	無	
要　約	調査において，弥生時代中期方形周溝墓の区画溝１条が検出された。出土遺物が小破片１点のため，確定できないが遺構の形態，周辺で発見された出土遺物から中期後半として想定される。結果，墓域としての土地利用が明らかとなった。				

千葉県八千代市　蛸池台遺跡ｂ地点
―集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

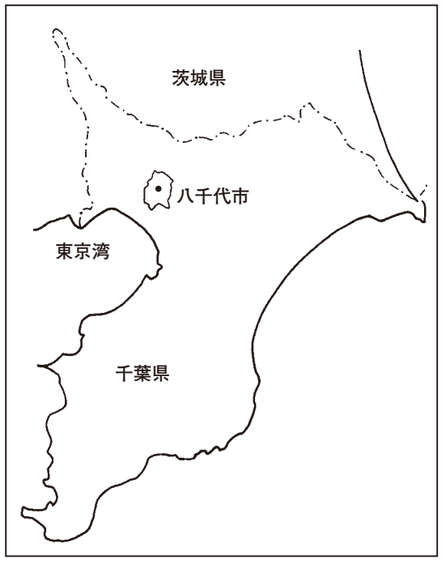
発行日　令和５年12月20日
編　集　八千代市教育委員会　文化・スポーツ課
〒276-0045　八千代市大和田138-2
℡ 047-481-0304（文化財班）
発　行　鈴木　誠治
印　刷　株式会社 山下印刷

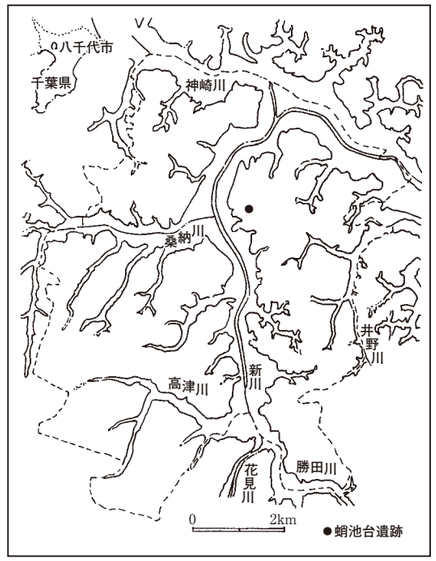
千葉県八千代市　蛸池台遺跡ｂ地点　―集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―　2023　鈴木　誠治　八千代市教育委員会

千葉県八千代市

蛸池台遺跡ｂ地点

―集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―





２０２３

鈴 木　誠 治

八 千 代 市 教 育 委 員 会

凡　　例

1　本書は，八千代市米本字原内 2167-19 に所在する蛸池台遺跡 b 地点の発掘調査報告書である。
2　発掘調査は，確認調査を国庫・県費補助事業として，本調査については，民間開発等埋蔵文化財調査事業として，事業者より調査協力金を納付いただき，八千代市教育委員会の委託事業として実施した。
3　発掘調査・本整理作業は以下のとおりである。

調査

確認調査　期間　令和 5 年 5 月 30 日～ 6 月　7 日　面積 148㎡ /1244.39㎡　担当　森　竜哉
本調査　　期間　令和 5 年 8 月 23 日～ 9 月 15 日　面積 35㎡　担当　森　竜哉
調査補助員　板橋三郎・田中直子（確認調査のみ）・長谷川恵理子（本調査のみ）・原田雪子

整理

図版作成・執筆　期間　令和 5 年 10 月 3 日～ 10 月 31 日　担当　森　竜哉
整理補助員　　柴田清加・長谷川恵理子（基本整理）
文化財整理員　宇都洋子・杵島由希・鈴木　薫

4　本書の編集・執筆は森がおこなった。
5　現場の遺構写真は森が撮影した。
6　本書の作成・刊行については，整理補助員と森が協力して行い，森が統括した。
7　出土遺物，実測図等の資料は，八千代市教育委員会が保管している。
8　本書の遺構番号は，発掘調査時の番号を使用している。
9　01HS（遺構）・位置図・全体図等の縮尺は，各々表記した。
10　本書使用の地形図は下記のとおりである。
　第 1 図　八千代市発行　1/2,500 八千代都市計画基本図
11　発掘調査から整理作業において下記の諸氏・機関にご指導，ご協力いただきました。記して感謝いたします。（敬称略）
　鈴木誠治　千葉県教育庁文化財課

本　文　目　次

凡　　例
目　　次
第 1 章　調査に至る経緯・経過及び遺跡の概要……1
第 2 章　検出された遺構……3
第 3 章　まとめ……4

挿　図　目　次

第 1 図　蛸池台遺跡の範囲……1
第 2 図　遺構全体図 ……2
第 3 図　基本層序・01HS 遺構実測図 ……3
第 4 図　市域弥生時代中期遺構・遺物図 ……6
第 5 図　埋やちよ№ 37 抜刷 ……7

写 真 図 版 目 次

図版 1　遺構［調査風景・01HS プラン確定・完掘状況・遺跡全景］
参考文献
報告書抄録

［参考文献］

蛸池台遺跡
2009　八千代市教育委員会「千葉県八千代市　市内遺跡発掘調査報告書　平成 20 年度」
2017　千葉県八千代市　埋蔵文化財通信「埋やちよ」No.37

栗谷遺跡
2001　八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市栗谷遺跡　八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文財調査報告書Ⅰ－第 1 分冊－」
2004　八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市栗谷遺跡　八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅰ－第 1 分冊本文編－」
2003　八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市栗谷遺跡　八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅰ－第 2 分冊－」
2004　八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市栗谷遺跡　役山東遺跡　雷南遺跡　雷遺跡　八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅰ－第 3 分冊－」

逆水遺跡
2007　八千代市教育委員会「千葉県八千代市　市内遺跡発掘調査報告書　平成 8 年度」

殿内遺跡
2009　八千代市教育委員会「千葉県八千代市　殿内遺跡 b 地点－公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ－」

沖塚遺跡
2000　千葉県八千代市　埋蔵文化財通信「埋やちよ」No.7
2007　八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市　浅間内遺跡・白筋遺跡・沖塚遺跡　八千代市辺田前土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書」

田原窪遺跡
1995　八千代市教育委員会「平成 6 年度八千代市埋蔵文化財調査年報」
1996　千葉県教育庁生涯学習部文化課「千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報　－平成 8 年度－」
2003　千葉県「千葉県の歴史　資料編　考古 2（弥生・古墳時代）」p230 ～ 231　71 田原窪遺跡
2007　千葉県「千葉県の歴史　通史編　原始・古代 1」p440 ～ 441

上高野白幡遺跡
2016　千葉県教育委員会「千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告書　第 15 集　八千代市堂の上遺跡・上高野白幡遺跡・平沢遺跡・赤作遺跡・阿蘇中学校東側遺跡　－一般国道 296 号道路改良事業埋蔵文化財調査報告書－」
2021　千葉県教育庁教育振興部文化財課「千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報－令和 3 年度－」p7

弥生時代全般
2003　千葉県「千葉県の歴史　資料編　考古 2（弥生・古墳時代）」
2004　千葉県「千葉県の歴史　資料編　考古 4（遺跡・遺構・遺物）」p48 ～ 57　p542 ～ 553
2007　千葉県「千葉県の歴史　通史編　原始・古代 1」第 2 章第 2 節・第 3 節
2014　小倉淳一「印旛沼周辺地域における宮ノ台式土器出土遺跡の変遷－壺形土器を中心として－」『法政考古学』第 40 集　法政考古学会

第１章　調査に至る経緯・経過及び遺跡の概要

第１図　蛸池台遺跡の範囲　　⊙は，弥生土器（中期後半）出土地点

0　150m
［S＝1：5,000］

調査に至る経緯

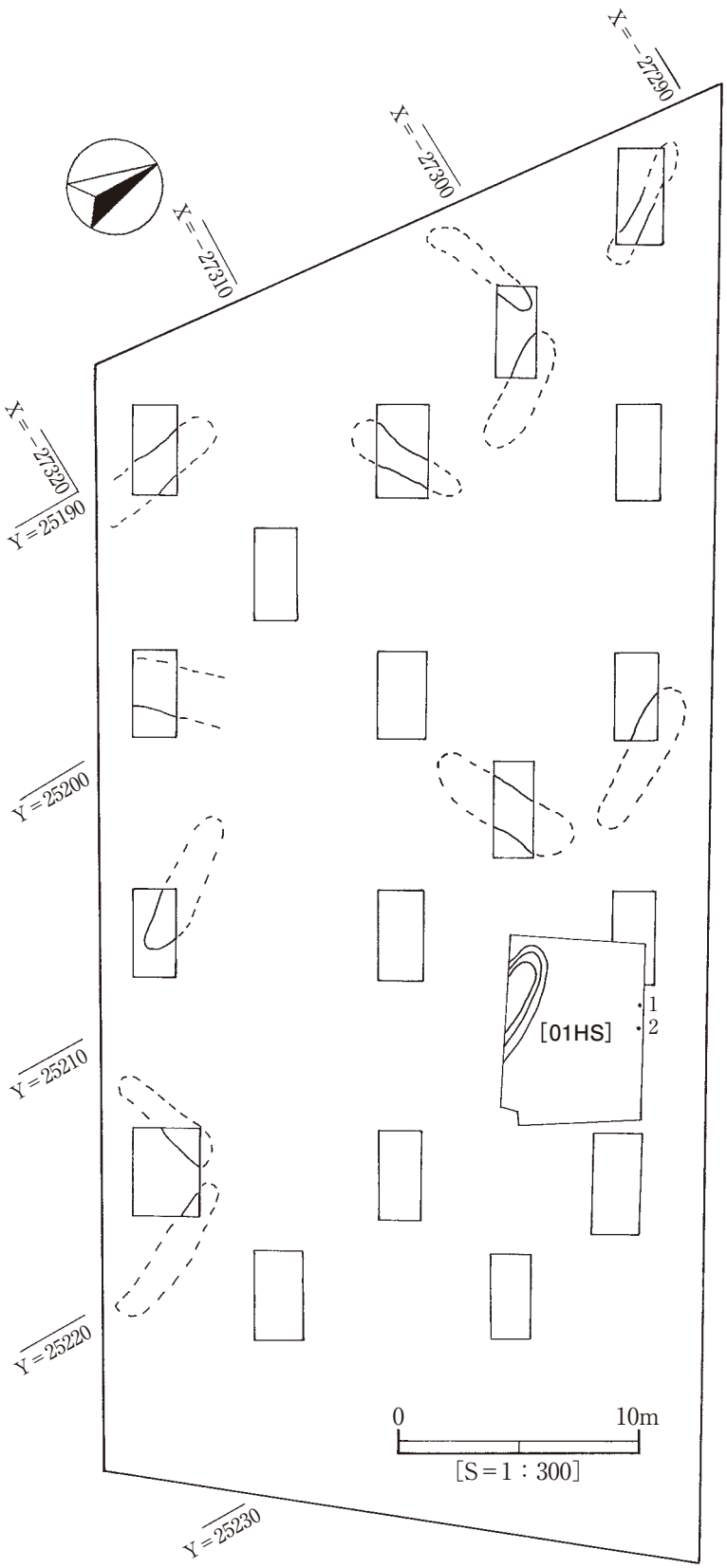
令和３年10月，鈴木誠治　氏（以下事業者という）から，集合住宅を予定する旨で「埋蔵文化財の取扱いについて（確認）」の文書が八千代市教育委員会に提出された。確認地は，市遺跡№112蛸池台遺跡の範囲内であることから，文化財保護法第93条の届出が必要な旨回答した。届出を受けて，協議の結果，確認調査を実施することとなり，準備が整った令和５年５月に確認調査を実施した。その結果，弥生時代方形周溝墓６基が検出され，その後988㎡の協議範囲の内，切土対応の35㎡について，記録保存の措置をとることとなり，委託契約書の締結等諸準備が整った令和５年８月本調査に着手した。

経過及び遺跡の概要

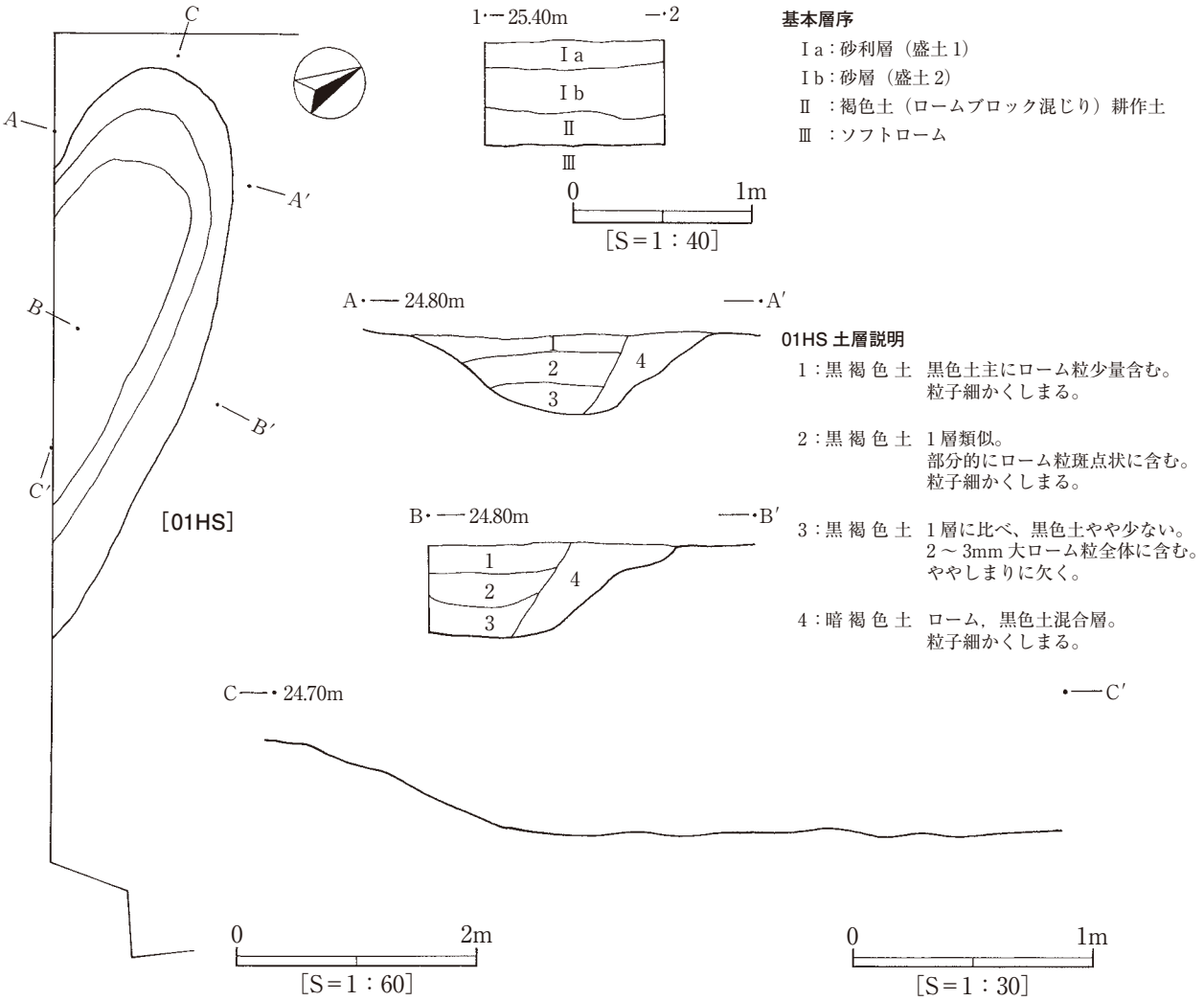
調査期間は令和５年８月23日～９月15日で，８月23日重機による調査区の表土剥ぎ，24日～29日基準点測量・水準点測量の現地立会，31日トイレ搬入確認・器材搬入，９月１日から人員配置による調査着手。遺構確認及び一部拡張。６日遺構プラン確定後，写真撮影。結果として，方形周溝墓の区画溝１条を検出した。７日～12日区画溝掘り下げ・セクション実測・遺構完掘により，調査区遺構全景の撮影と光波測量による平面図を作成し，調査実務を完了した。13日～15日調査区埋戻し・トイレ汲取り・トイレ撤収により全てを完了とした。

本遺跡の調査経歴は，平成19年（2007）２月，病院駐車場整備を目的として，a地点の確認調査が実施された。結果，遺物では縄文時代前期末～中期初頭の土器胴部片，古墳時代前期土師器甕（ハケ目施文）

胴部片，遺構では，前述出土遺物から，古墳時代前期に該当する溝１条が検出された。今回は，a 地点北側で近接した地点であり，同様の成果が期待された。これとは別に，平成 27 年(2015) 11 月に a 地点西側の畑耕作中に土器が出土したと耕作者から連絡があり，現地確認したところ，7 点の弥生土器が耕作土下 70 ～ 85㎝の地点からまとまって発見された。出土状況から竪穴建物跡からの出土と推察された。これら 7 点の土器については，第 5 図の埋やちよ№ 37 抜刷に詳細が記述されるが，弥生時代中期後半の一括遺物に想定される。なお出土地点は，第 1 図に示した。本地点の評価はこのような経過により，a 地点にみられた遺構・遺物の希薄な様相を想定していたが，結果として今回の本調査成果を含めて 7 基の方形周溝墓が確認・検出された。遺物は小破片 1 点のみであり，時期の特定は確証を持って言えないが，方形周溝墓の形態が，四隅において立ち上がる陸橋型であり，前述した畑耕作中の遺物出土状況と時期から，弥生時代中期後半の墓域としての可能性が高いと考えている。



第 2 図　遺構全体図



第3図　基本層序・01HS 遺構実測図

第2章　検出された遺構

今回の本調査において検出された遺構は，方形周溝墓に想定される区画溝1条のみである。第2図に示したように，確認調査において方形周溝墓6基を確認している。確認調査時に3カ所の拡張を実施した結果，区画溝の末端部立ち上がりを確認しており，陸橋型方形周溝墓の形態として想定されよう。今回の本調査により，総計7基の方形周溝墓となった。確認状況からは，東側を除き更に展開する可能性が高い。

01HS（第3図・図版1）　※HSは方形周溝墓の略称とした。

位置：調査区西側隅。**確認面**：Ⅲ層上面。主軸**方位**：N-36°-W。**重複関係**：なし。**規模等**：遺存長4.6m×幅1.5m×深さ0.5mでハードロームを0.25m掘り込む。**壁面**：北側溝端部は底面から緩く立ち上がり，中場から上場にかけて壁の角度が更に緩くなる。溝東側では，底面から角度を持って立ち上がり，上場に近い部分で角度変換し，緩く立ち上がっている。**底面**：ほぼ平坦で同一レベルである。やや凹凸が見られるが，顕著ではない。**覆土**：壁際に粒子細かくしまった暗褐色土が三角形状に堆積する。中央部では，黒褐色土主体の層で，下層でややローム粒を増し，しまりに欠く層となっている。自然埋積土と想定される。**遺物**：出土しなかった。

第３章　まとめ

今回の調査において検出された遺構は，方形周溝墓の区画溝１条のみである。確認調査・畑地発見の土器類の知見を織り交ぜながら結論づけることとしたい。方形周溝墓の形態は，四隅において溝が立ち上がる四隅陸橋型である。この形態は，弥生時代中期後半に位置づけられる。また西側畑地発見の弥生土器類も中期後半で，出土状況から竪穴建物の所在が想定されている。こうした位置関係から，時期の詳細には言及できないが，同一台地上での集落と墓域の設定が可能である。集落の占地から見ると，墓域を東限とし，台地縁辺部を西限，北側の谷津を北限とすると，150m 規模の円形範囲を設定できる。環濠がこの時期に必ず付随する訳ではないので，今後の成果を見守ることとしたい。後段として市内での弥生時代中期の遺跡について概要を記すこととする。

市域の四隅陸橋型方形周溝墓及び集落遺跡・遺物について

令和５年（2023）段階での公表されている遺跡は以下の通りである。

栗谷遺跡（第４図上段左②）

市域北東部の大学･住宅地造成にかかるセット開発事業に先行して，栗谷遺跡を含む９遺跡（420,000㎡）について調査が実施された。本遺跡での調査の結果，弥生時代では中期の竪穴住居跡５軒，方形周溝墓 11 基，土坑１基，後期では竪穴住居跡 92 軒，方形周溝墓２基，土坑 14 基，後期・終末期～古墳時代前期の竪穴住居跡２軒，方形周溝墓３基が検出された。中期の方形周溝墓は３群に分類され，２系統２時期の設定がなされている。竪穴住居跡についても時間差がわずかであるが，２時期に分類されている。時期は小倉編年 ETⅡa ～Ⅱb 期（中期後半中葉段階）で，集落・方形周溝墓の展開は，未調査区を含んでおり拡大する可能性が高いと想定されているが，環濠を巡らさない集落として位置づけられている。

逆水遺跡（第４図上段左③）

農業用施設設置事業に先行して，確認調査が実施された。結果，６基の方形周溝墓が発見され，その内の２基について本調査が行われた。四隅陸橋型で，２号方形周溝墓のＳ溝（南側区画溝）覆土下層から壺形土器が出土した（第４図下段中央）。時期は小倉編年 ETⅡb 期（中期後半中葉後段）に位置づけられている。方形周溝墓は４基単位とも想定されているが，南側に更に展開する。また本地点北側は未調査であるが，台地縁辺部まで 100m 以上の平場で，集落と方形周溝墓の立地空間としての可能性が考えられよう。なお，同遺跡内では，他に中期の遺構は検出されていない。後期では，これまで 10 地点の確認調査・本調査で 10 棟の竪穴建物跡が把握されている。

殿内遺跡（第４図上段左④）

八千代市立郷土博物館建設事業に先行して，調査が実施された。調査区北東隅に四隅陸橋型の方形周溝墓１基が検出された。規模は，区画溝を含め 10.8m × 5.4m 以上で溝幅 0.9 ～ 1.2m，深さ 0.3 ～ 0.5m である。遺物は出土しなかった。本遺跡の他地点では遺構・遺物は検出されていない。

沖塚遺跡（第４図上段左⑤）

八千代市辺田前土地区画整理事業に先行して，調査が実施された。塚の整地層下（自然堆積層中）から遺構外出土遺物として，一個体分の甕が接合しない状態で出土した。時期は弥生時代中期前半である。同遺跡の他地点において，遺構・遺物は検出されていない。

田原窪遺跡（第４図上段左⑥）

市域北西部の大学･住宅地造成にかかるセット開発事業に先行して，平成３年（1991）～８年（1996）に亘り調査が実施された。結果として，環濠を含む内側部分とその外側についての成果を得られた。環

濠は 100m × 120m の楕円形に巡り，濠幅 2 ～ 3m，ｖ字形断面で深さ 1 ～ 2m の規模をなす。環濠内側に 46 軒，外側に 3 軒の竪穴住居跡が検出され，建替えから 3 期の変遷が想定された。環濠の形態，出土遺物から弥生中期後半の集落跡と断定される。出土土器は，甕，壺，石器では太形蛤刃石斧・柱状片刃石斧の他に住居の炉内から炭化米が大量に出土した。これとは別に，環濠外側の北東部谷津対岸において，時期は確定されないが，方形周溝墓が確認された。なお，環濠・方形周溝墓とも，本報告については未刊行である。

上高野白幡遺跡（第 4 図上段左⑦）

国道 296 号道路改良事業に先行して，千葉県教育委員会が道路幅分について調査を実施した。平成 22 年（2010）8 月～ 9 月に確認・本調査を行い，縄文時代土坑 1 基，弥生時代中期後半の竪穴住居跡 5 軒が検出された。出土土器から，時期は小倉編年 ETⅡa ～Ⅱb 期（中期後半中葉段階）である。石器類も出土しているが，典型的なタイプではない。平成 28 年（2016）に報告書が刊行された。

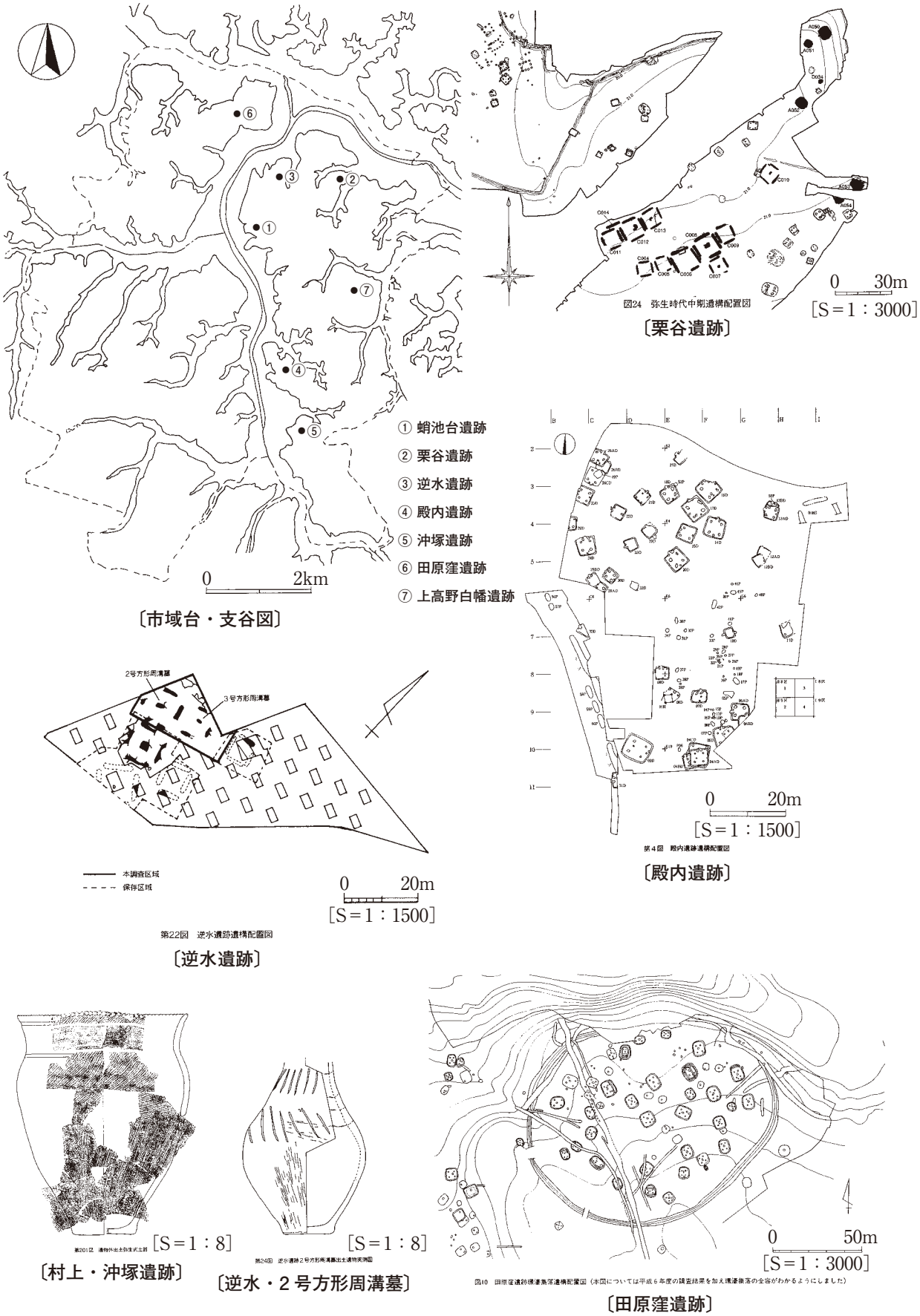
同一事業として，同台地上の西側部分及び東側部分の一部において，令和 3 年（2021）12 月～同 4 年 2 月に確認・本調査が行われた。報告書は現時点で未刊行だが，抄報の記載に，弥生時代では竪穴住居跡 1 軒・土坑 1 基・環濠 2 条が検出されている。

以上，概要を述べてきたが，本市においては，弥生時代中期の遺跡・遺構は，稲作農耕受容期にあたり限られた検出状況である。この中で少しずつ蓄積された情報から言及することとする。

中期前半は，沖塚遺跡において遺構を伴わない状況で甕形土器が出土しているが，その評価については深谷昇氏が「埋やちよ№ 7」中において，独自の農耕活動を行い，縄文時代的色彩の強く残る時期であったと考えられるとしている。

中期後半では，**方形周溝墓**については，栗谷遺跡・逆水遺跡・蛸池台遺跡において列と方向を揃えた状況で検出されている。これには系統的な配置が伺え，集団墓と想定されよう。県下においても中期中葉以降，規模の大小はあるが，一定の規格性は見られる状況である。規模については，栗谷遺跡では 12.2m × 12.05m を最大として 7.8m × 7.15m を最小としている。逆水遺跡では 8.3m × 8.7m 規模，殿内遺跡では，10.8m × 5.4m 以上と際立って規模の大きいものは見られない。何れも，陸橋部分を含んだ計測値である。**集落**については，栗谷遺跡・田原窪遺跡・上高野白幡遺跡があげられる。栗谷遺跡は環濠が検出されず，濠を巡らさないタイプとして位置づけられている。台地縁辺部に竪穴住居跡が展開している状況である。田原窪遺跡は，環濠を有し，竪穴住居跡が濠内側に 46 軒，外側に 3 軒検出されている。100m × 120m の楕円形の環濠や出土遺物に大陸系磨製石器群を伴っている点，炭化米の出土からも規格性の高い集落に位置づけられる。上高野白幡遺跡では，竪穴住居跡 5 軒が比較的近距離に検出された。令和 3 年度の調査では環濠が検出されていることが明白で，成果が刊行されることを待つこととしたい。

中期後半は県下において，環濠・方形周溝墓・大陸系磨製石器群がセット関係で検出・出土する傾向にある。環濠を伴わない，石器が在来品に近いといった部分もあるが，受容差といえようか。当地においても，西からの流れを当初は受け止め，時間的経過をもって，地域文化として獲得し，弥生時代後期，古墳時代へと推移したのであろう。



第４図　市域弥生時代中期遺構・遺物図

No. 37
千葉県八千代市
埋蔵文化財通信
2017. 8. 1
（平成29年）

連報　蛸池台遺跡採集の弥生土器

はじめに

今回の特集では蛸池台遺跡で採集された弥生土器について見ていきたいと思います。

蛸池台遺跡の概要

蛸池台遺跡は八千代市米本に所在し，西に新川の低地を臨む台地上に位置しています。『千葉県埋蔵文化財分布地図（１）　―東葛飾・印旛地区（改訂版）』（財団法人千葉県文化財センター編 1997）によると，本遺跡の時代は縄文時代・古墳時代・奈良時代・平安時代とされています。

蛸池台遺跡での発掘調査については１度だけ確認調査が行なわれ（ａ地点），その時は古墳時代前期と考えれる溝跡が１条検出されました。

弥生土器採集の経緯

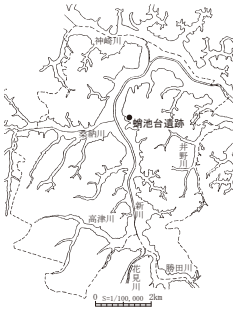
蛸池台遺跡の範囲内にあたる畑で耕作者が農作業中に土器を採集したという連絡が 2015 年 11 月末にあり，市の文化財担当者が現地に行ったところ，多数の弥生土器が確認されました。発見者の話によると土器が採集された深さは地表面下 70 ～ 85 ㎝程度ということであり，このことから堆積土やその出土状況により竪穴建物跡からの出土と推察されました。

採集された弥生土器の特徴

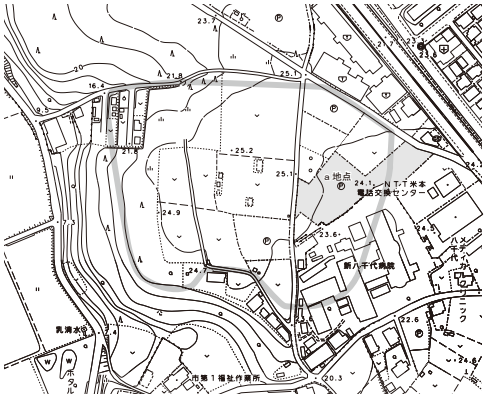
昔の人々は時期によって特徴が異なる土器を使っており，考古学界は「○○式土器」という名称を与えることでそうした違いを認識しています。今回採集された弥生土器は「宮ノ台式土器（以下宮ノ台式）」というもので，弥生時代中期末，およそ紀元前１世紀～紀元後１世紀の時期にあたると考えられます。

それでは，以下で今回採集された土器の特徴について詳しく見て行きたいと思います。

第３図１は完形の壺形土器で，縄文が施された後にヘラ状の工具で描いた螺旋状の線が施文されています。頸のあたりには粘土紐が貼りつけられ，そこにヘラ状工具で縦方向の線が連続的に施されています。

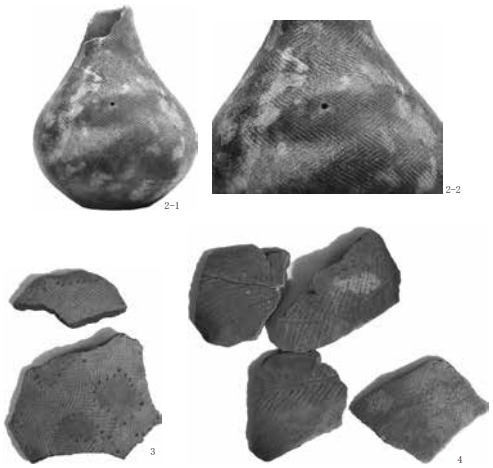


第１図　蛸池台遺跡の位置



第２図　蛸池台遺跡の範囲

第３図　蛸池台遺跡で採集された土器１



第４図　蛸池台遺跡で採集された土器２

第４図２も壺形土器で，頸から上は欠損しています。附加条縄文という少し変わった撚り方をした縄文が頸のあたりから胴部にかけて施されています。さらに胴部には焼成後に故意に穴を空けたいわゆる「焼成後穿孔」も見られます。

第４図３も壺形土器の破片で，いわゆる「羽状縄文」が施され，縄文帯を断面円形の細い棒状工具で刺突して区画しています。なお，こうした文様間には赤彩も施されています。

第４図４も壺形土器の破片で，上から縄文，ヘラ状工具による横方向の直線と三角文，再び縄文，そして櫛状工具による波状文が施されています。

第５図５は胴部～底部まで残っている甕形土器で，内面にはコゲが見られることから煮炊きに使われたと考えられます。外面には木の板で器面をナデたハケ調整というものが見られ，内面は磨きこまれて光沢が見られます。

第５図６も甕形土器で外面にスス，内面にコゲが見られることから煮炊きに使われたものと考えられます。器面の外側と内側にはハケ調整後にミガキ調整が施されており，口縁部にはハケ工具を押し付けた文様が施されています。

第５図　蛸池台遺跡で採集された土器３

第５図７はいわゆる「手づくね土器」で，器面はキレイに整えていないことから回凸が激しく，粘土紐を積み上げた痕もはっきりと確認できます。一方，焼成前に空けた二個一対の孔が口縁部下に二ヶ所見られます。

まとめ

『千葉県埋蔵文化財分布地図（１）　―東葛飾・印旛地区（改訂版）』では蛸池台遺跡が弥生時代に属する遺跡とは認定されていません。そのため，今回採集された弥生土器とその出土状況は弥生時代の遺構・遺物，そして集落跡が本遺跡に存在することを明示しており，新たな発見となりました。

次に，学術的な意義についても触れたいと思います。第４図２・３に見られる羽状縄文は宮ノ台式の終末期によく見られるものです。したがって，蛸池台遺跡の集落では少なくとも宮ノ台式終末期に生活を営んでいた人々がいたと考えられます。八千代市では栗谷遺跡や上高野白幡遺跡，逆水遺跡などで宮ノ台式期の集落跡が確認されていますが，いずれも宮ノ台式中頃の集落跡でした。そのため，宮ノ台式終末期の集落跡が蛸池台遺跡に確実に存在すると判断できる今回の発見は八千代市の弥生時代を考える上で重要な発見と言えるでしょう。

さらに，もう少し広い目で見てみると印旛沼沿岸でも宮ノ台式終末期と考えられる集落跡の発見数は少ないため（小倉 2014），今回の発見は印旛沼沿岸における弥生時代の歴史にも新たな１ページを刻むものと言えるのではないでしょうか。

参考・引用文献

小倉淳一 2014「印旛沼周辺地域の宮ノ台式土器出土遺跡の変遷　―壺形土器を中心として―」『法政考古学』第 40 集　法政考古学会
財団法人千葉県文化財センター編 1997『千葉県埋蔵文化財分布地図（１）　―東葛飾・印旛地区（改訂版）―』財千葉県文化財センター
八千代市教育委員会編 2009『千葉県八千代市内遺跡発掘調査報告書　平成 20 年度』八千代市教育委員会

埋（まい）やちよ　No. 37
―千葉県八千代市埋蔵文化財通信―
平成 29 年８月１日
編集・発行　八千代市教育委員会
教育総務課　文化財班
八千代市大和田 138-2
〒 276-0045　☎ 047(481)0304

第５図　埋やちよ No.37 抜刷

図版 1

確認面精査状況

遺構確認状況

遺構掘り下げ状況

基本層序

遺構セクション A–A’

遺構セクション B–B’

遺構完掘状況（全体）

遺構完掘状況